

# 中国農村・農民政策の課題と世界食糧危機

The Challenge of Chinese Rural Policy and the Global Food Crisis

中国農村・農民的危機与世界糧食問題

講師：李昌平氏

オックスファム香港中国部顧問  
河北大学中国郷村建設研究中心主任研究員

日時：2008年7月15日（火）15:00～16:30

場所：大阪大学人間科学研究科東館303講義室

参加：無料・事前申込不要

主催：大阪大学グローバルコラボレーションセンター  
大阪大学グローバルCOEプログラム

「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」

\*中国語講演（深尾葉子准教授（大阪大学大学院経済学研究科）による通訳が行われます。）

1990年代以降、中国政府は都市部の発展を優先する一方で、農村を都市・インフラの建設やエネルギー生産などに従事する大量の低廉な労働力「農民工」の供給源として位置づけてきた。その結果、農村・農民は疲弊した。同時に、世界の工場となった中国では、汚染負荷の高い製造工場が農村のいたるところに林立し、水源や土壌の極端な汚染を引き起こし、農業環境をかつてないほど劣化させている。こうした中、多くの農民は農業に展望を失い、農村にとどまることに絶望を感じ、農業からの離脱を渴望している。また一方で食生活の向上が進み、大豆をはじめとする食糧輸入が増え始めている。本セミナーでは、こうした中国の農村・農民問題、ならびにアメリカのバイオエタノール戦略が、東アジアの食糧問題に与える影響について警鐘をならす李昌平氏とともに、東アジア食糧戦略を考える。

李昌平（りしょうへい）氏



湖北省で1980年代から90年代にかけて農村幹部をつとめ、農村・農民問題の深刻さを痛感。2000年に、農村農民をめぐる理不尽な処遇を訴える書簡を当時の朱鎔基首相にあてて送る。これがきっかけとなり、中央は同地域に調査団を派遣。同時に全国の農村・農民・農業問題へのとりくみが本格化する。その後広州で仕事をしたのち、北京で雑誌の記者、編集者などを経て、現在はオックスファム香港中国部顧問、河北大学中国郷村建設研究中心主任研究員。日本での訳書に李昌平著『中国農村崩壊—農民が田を捨てるとき』吉田富夫監訳、北村稔、周俊訳、NHK出版、2004年。

問い合わせ先

大阪大学グローバルコラボレーションセンター

TEL:06-6879-4442 FAX:06-6879-4444

E-Mail: [jmu@glocol.osaka-u.ac.jp](mailto:jmu@glocol.osaka-u.ac.jp)

<http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/>

GLOCOL  
GLOBAL COLLABORATION CENTER

大阪大学グローバルCOEプログラム  
コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点



大阪大学吹田キャンパス人間科学研究科東館303講義室  
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番2号